

男女共同参画セミナー



2012.12.20 芸術工学部

多様なステージで活躍するために
自分流のキャリアデザイン

社会で活躍する芸術工学部卒業生2名(横田理恵子氏・株式会社マクロミル・3期生、野村亮之氏・株式会社インタレストマーケティング・5期生)を講師に招き、これまでの働き方やワーク・ライフ・バランスについてご講演いただきました。

「自分流のビジネススタイルとワーク・ライフ・バランス」(横田氏)、「仕事をつくり、チームを育て、大きな仕事を一会社の枠組みにこだわらない、これからの働き方」(野村氏)というタイトルどおり、常に自分らしく新しいことに挑戦し続け、果敢に道を切り拓いてきたお二人の姿は、参加した学生にとって良いモデルとなったことでしょう。またお二人とも、信頼できる人とのつながりを大切にしていることが印象的でした。学生の皆さんには、芸術工学部で築く関係を大切に、自らの目標に進んでほしいと思います。



2013.1.17 人文社会学部

仕事と子育てを両立し、
女性が輝くフィールドを

「文系女性教員の仕事と家庭の両立」をテーマに、調査報告とコメント、フロアとの意見交換を行いました。調査報告では「名古屋市立大学における研究者の研究活動に関する調査」(平成22年)の結果から、男性教員に比べ女性教員の子育て・家事の負担が重いこと、研究業績は男女でほとんど変わらないことが指摘されました。続く現職女性教員2名(人間文化研究科准教授・天谷祐子先生、人間文化研究科准教授・成玖美先生)は、それぞれの立場から仕事と子育ての現状と問題点についてコメントがありました。その中には、ベビーシッター代金など経済的負担への支援、就学期以降まで見通した「息の長い」子育て支援、産休・育休中の非常勤講師の予算措置、学内保育所の拡充、学童保育の設置など、緊急に取り組んでいくべき要望が多くありました。



2013.2.7 薬学部

科学研究者にも多様性を
一男女がともに活躍できる場を目指してー

本学薬学部出身の稲垣忍先生(大阪大学大学院医学系研究科教授)による講演会を開催し、薬学部3、4年生を中心に多くの参加がありました。

まず実行委員の伊藤史織さんから「学生の研究職に対する意識調査」の結果報告があり、研究への興味は男女で差がないが研究職を希望する女子学生は少ないこと、その背景として、家庭と研究の両立や男性優遇に対する不安が考えられるという結果が示されました。

続く稲垣先生は「研究者に求められるもの。女性は研究に向いている?」というタイトルで、国の施策や大阪大学の事例、稲垣先生ご自身の経験をふまえたご講演をいただきました。両立のためには完璧を目指さず周囲をお願いすることも大事、興味があるなら研究職に挑戦を、というメッセージには多くの参加者が勇気づけられたことでしょう。

ハラスメント研修会



2012.11.29

ハラスメントのない
キャンパスをめざして

2012年11月29日に、ハラスメント研修会を実施しました。講師には、東京大学学生相談所所長で教授の、倉光修先生にお越しいただきました。倉光先生のお話によると、アカデミック・ハラスメントとして訴えられる例としては、侮辱、指導放棄、研究妨害、過重労働の強制、業績の搾取、研究の自由の拘束、威嚇、差別的対応、脅迫などがあり、ハラスメントを受けたものは、恐怖反応、PTSDの反応、うつ状態、強い怒りなどが生じる場合があるといえます。より深刻な場合には、被害者が自殺に至る場合もあります。

ハラスメントが生じないような教育・研究・労働環境を整備することは、本学にとっても非常に重要です。ハラスメントの予防啓発も、今後さらに充実させていく必要があります。ハラスメントのないキャンパスを作るには、本学のひとりひとりの努力も必要です。

第1回名古屋市立大学男女共同参画Men'sセミナー



2012.12.17

「イクメン」セミナー
育児を楽しみ、パパ力を高めよう!

2012年12月17日に、本部棟4階大ホールにて「イクメン」セミナーを開催し、本学教職員・学生約40名が参加しました。講演では、横井寿史氏(NPO法人ファザリングジャパン・理事)が、仕事と生活のベストバランスについて考えるための、たくさんヒントを提示されました。父親の子育ては家族の成長戦略そのものであり、父親がワーク・ライフ・バランスをうまくとることこそが、自分自身の成長にとっても、また家族の成長にとっても重要だという点が強調されていました。本セミナーの参加者からは、非常に役に立ったという意見が多数寄せられました。また、本学の教職員がどのように育児をしながら仕事をこなしているのか、ぜひ身の回りの人たちの体験談を聞きたいという意見も寄せられ、今後、そのような交流会の機会も設けていきたいと考えています。

男女共同参画室・総合研修センター共催セミナー



2013.2.6

未来を担う医療人を育成するために。
若手医師のキャリアパスを考える。

2013年2月6日、総合研修センターと共催で、若手医師のキャリア支援とワーク・ライフ・バランスを考えるセミナーを開催しました。セミナーでは、はじめに臨床研修医の利重裕子先生による臨床研修医アンケート結果報告を行い、続いて大越香江先生(京都大学医学部附属病院消化管外科特定助教)にご講演をいただきました。ワーク・ライフ・バランスには、収入を伴う仕事(work1)・収入を伴わない仕事(work2)・睡眠・食事など生命維持に必要な活動(life1)・余暇(life2)の4つすべてのバランスが必要であるという点をはじめ、大越先生のお話は男性にとっても興味深かったようで、質疑応答時にも男性医師から鋭い質問がありました。また出産後は必ず元の職場に復帰せよ、家事サービスは積極的に利用すべき、などの具体的なアドバイスは、女性医師にとって大変心強いものだったと思います。

女性研究者ランチミーティング

11月21日、今年度第5回女性研究者ランチミーティングを開催しました。

今回はまず、4月にも話題に上った、さくらんぼ保育所の現状について意見が出されました。さくらんぼ保育所に子を預ける参加者の女性が、認可園への入所申請をしたところ、さくらんぼ保育所に入所しているという理由で、育児休業明けの申請者よりも優先順位が下がり入所できなかったそうです。現在、1歳児や2歳児だけでなく、さくらんぼ保育所の対象年齢を超える3歳児でも他の保育所に入所できずにいる子どもがいます。今後、男女共同参画室・女性研究者支援室で現状を把握していきたいと思えます。

後半は、さくらんぼ保育所を利用する父親へのアンケートを行った看護学部の学生が結果を報告してくれました。さくらんぼ保育所に子を預ける父親は子育てに多く関わり、妻が働くことに対して協力的という結果を聞き、大変嬉しく思います。



【写真左】ランチミーティングの様子
【写真右】卒業研究でさくらんぼ保育所に子を預ける父親を対象にアンケート調査を実施した看護学部4年生の栗嶋友里さん、脇田奈美さん(門間晶子研究室)

今回、たくさんの方にご協力いただき、有意義な研究ができたことにとっても感謝しています。この研究を生かし、働く女性を支援をしていきたいです。

次回ランチミーティングのお知らせ

日時: 2013年3月13日(水) 12時00分~13時00分

場所: 桜山キャンパス西棟2階看護学部演習室A

対象: 本学の女性研究者・女子学生 ※昼食は各自持ち寄りをお願いします。

さくらんぼ保育所だより

子どもたちと子どもたちを見守るおとなのみんで

メリークリスマス

普段は単身赴任でなかなか保育所に来ることができないパパの皆さんや、おばあちゃん・おじいちゃんの皆さん等、子どもたちを見守る大人たちが集まったクリスマス会を行いました。ママ・パパ・職員で結成した楽団でのクリスマスソングの演奏、パパふたりが演じるトナカイさんとサンタさんから子ども達へのプレゼント贈呈、食事をしながらの歓談等、楽しいひとときを過ごしました。また、準備のところでは男女共同参画室の方々も来てくださり、子育てや保育を支援して頂けることの心強さも感じるころでした。どうもありがとうございました。

